

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
放課後等デイサービス ピーオブエス		年 月 日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	5	1	デイルームに置かれる必要書類等を事務所に移し、児童が過ごす面積を2倍(前年比)に増加した。	環境設定を精査する必要と、機会を増やしていきたい
	2	4	2	児童数、特性に合わせたスタッフを配置している。	総スタッフ数が充足しているとは言えない。人員補充の必要がある。
	3	4	2	半個室、個室の環境設定をしている。	環境設定を精査する必要と、機会を増やしていきたい
	4	4	1	1日の業務の流れの中に掃除機での掃除を義務付けている。	遊びに使えるものや遊び内容について、より精査していきたい環境設定していきたい。
	5	4	1	認めている。	どういった場面で使うかの基準を明確にしていきたい。
業務改善	6	4	2	毎週1回、会議を行っている。 常勤、非常勤の垣根なく参加を募っている。	毎回の参加可能人数にムラがあり、周知漏れがある。
	7	5	1	アンケートを行い、会議で共有している。	課題意識があり、改善途中。
	8	5	0	会議の定例化、共有する時間の確保が実現できている。	
	9	2	3	他事業所スタッフとの交流で意見交換している。	取り組み始めている為、改善途中である。
	10	2	3	研修参加、共有、内部研修の機会をつくっている。	外部研修に参加できる人数が限られている。
適切な支援の提	11	4	1	実施している。	内容の充実を現在図っている。
	12	2	3	年2回の面談、適宜電話や対面で相談を受けている。 外部研修により、スキルアップの機会を作っている。	ニーズに対する意識を高めていきたい。
	13	4	0	会議の定例化、共有する時間の確保が実現できている。	
	14	4	0	会議の定例化、共有する時間の確保が実現できている。	
	15	3	2	会議で共有機会を設け、 適応行動の状況を把握している。	専門性のあるアセスメント技術を全員が持ち合わせていない。全員のスキルアップ機会を設ける。
	16	4	0	会議の定例化、共有する時間の確保が実現できている。	
	17	3	2	会議で全員の意見が出ている。 出来るものは実施するという風土が出来てきている。	非常勤スタッフの意見をくみ上げにくい。 より自由に意見を集めたい。
	18	4	2	各スタッフのやりたいことを尊重し、 児童の課題を支援している。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4	1	子どもの状況に合わせて支援を行っている。	専門性を高めていきたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	1	送迎確認を含め打合せを行い業務に取り掛かっている。	出勤時間にばらつきがある為、毎回の打ち合わせが難しい状況にある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2	3	会議で共有している。	送迎時間のばらつきがあり、退勤時間に大きなばらつきがある。その日のうちの振り返りをするのが難しい。その為、会議での共有機会を設けている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	1	毎日連絡帳に記録、継続的な支援内容や、変更点についても連絡ツールを用いて共有している。	支援の検証についての意識を高めていきたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4	1	1年に2回面談を設定し、モニタリングを行っている。	より支援内容と、子供の状況を照らし合わせたモニタリングを全員でしていきたい。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4	1	実施している。	専門性を高めていきたい。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4	0	選択肢を提示している。	専門性を高めていきたい。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0	適した人間に参画させている。	ほとんどの会議に参加している者が固定化されている。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	0	必要であれば、電話やメールでの状況確認、共有を行っている。	積極的な連携をしていきたい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4	1	電話等で細かく情報共有、確認を行っている。	普通級の担任とも連携を行ってきたい。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	2	3	新1年生の新規利用について、情報共有を依頼している。	継続的な連携をしていきたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	0	担当者会議等、情報提供している。	継続的な連携をしていきたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	3	研修への参加を行っている。	幅広いスタッフに参加をしてもらう環境を整える。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	2	事業所主催の祭りに参加を募っている。	現状、関係が希薄。関係構築から取り組んでいきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	1	放デイ分科会をはじめとした、協議会へ参加している。	幅広いスタッフに参加をしてもらう環境を整える。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4	1	連絡帳、連絡ツール、対面、面談等でコミュニケーション機会を確保している。	受動的になっているの。積極的にコミュニケーションを図ってきたい。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	1	連絡帳、連絡ツール、対面、面談等でコミュニケーション機会を確保している。	専門性を高めていきたい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		契約段階、面談で説明を行っている。	専門性を高めていきたい。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3	1	連絡帳、連絡ツール、対面、面談等でコミュニケーション機会を確保している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	3	1	得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		連絡帳、連絡ツール、対面、面談等でコミュニケーション機会を確保している。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	2	昨年度後期より、季節に合わせたイベントを開催。保護者の参加も募り、希望者同士の交流がみられる。	まだ参加人数が少なく、参加できない保護者にとって保護者同士の交流機会は皆無である。工夫し、保護者同士の情報共有の場も作っていきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		連絡帳、連絡ツール、対面、面談等でコミュニケーション機会を確保している。	研修を定期的に行っていきたい。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	3	2	昨年度後期より、1か月の予定、イベント告知のチラシ作成、ブログを更新しています。	周知が足りてないと感じる。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		十分留意している。	研修を定期的に行っていきたい。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		連絡帳、連絡ツール、対面、面談等でコミュニケーション機会を確保している。PECSの導入も行っている。	専門性を高めていきたい。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5		秋にドリーミングフェスタを開催。周辺住民、同業種他者の方に参加していただいている。	より開かれたものにしていきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		事業所内、デイ内で児童含めた訓練を行っている。	周知に力を入れていきたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		実施している。	より現実的に動く訓練をしていきたい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4		フェイスシート、前所属機関への問い合わせにより、情報の共有、確認を行っている。	対処法についての専門性が不足している。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		対応している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		「せいかつきょうしつ」というタイトルで、安全計画、安全指導を実施している。	繰り返し実施し、定着を促したい。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3		プリントを配布し、指導内容の共有を行っている。	実際に行われている指導内容がイメージしづらい部分がある。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		週1回の会議で共有している。	方策についての検討機会を増やしたい。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		虐待防止研修を行っている。	外部研修に参加できる人数が限られている。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	2	2	記載している。	周知に力を入れていきたい。	